

寄稿

医薬品アクセスの格差是正へ 世界の取り組みをリードする ユニットエイド

日本のステークホルダーとも密なつながりを



ユニットエイド 事務局長
フィリップ・デュヌトン
Philippe Duneton

25年以上にわたりHIV／エイズ、感染症、公衆衛生の分野で活躍。新型コロナウイルス関連ではACTアクセラレーター治療部門の共同リーダーであるユニットエイドの指揮を執る。ユニットエイド以前は、パリのピティエ＝サルベトリエール病院で感染症の治療活動に従事したほか、フランス厚生省のアドバイザーも2期務める。また、パリ最大の医療関連企業が連携して実施したHIV／エイズとホーム・リダクションに関するミッションの責任者、欧州医薬品庁の理事長も歴任し、フランスの医療・保健関連製品の規制当局も主導した。

ユニットエイドは、低・中所得国で病気をより早く、より安価に、より効果的に予防・診断・治療するための革新的なソリューションを提供する国際機関だ。2006年にフランス、ブラジル、ノルウェー、イギリス、チリによって設立された。現在は日本もメンバーに加わっている。

設立時は、アフリカや東南アジアにおけるHIV／エイズ、マラリア、結核の3大感染症に対応するため、高品質の医薬品・診断技術の価格を下げて、それらを広く供給できるようにすることをミッションに掲げていた。現在はその枠を超え、母子保健といった領域にも踏み込み、世界保健機関（WHO）、世界エイズ・結核・マラリア対策基金（グローバルファンド）、国連児童基金（UNICEF）などのグローバルパートナーに新たなソリューションをもたらしている。新型コロナウイルスへの対応でも、国際アジアチブのACTアクセラレーターでそうしたパートナーと協力しながら、酸素、治療へのアクセ

スの促進をリードしている。

コロナ禍で私たちはさまざまな進化を目の当たりにした。一方、ワクチンなどへのアクセスにおいては、開発途上国との間にあまりにも大きな格差が存在することもあらためて実感した。

ユニットエイドが2010年に立ち上げた医薬品特許プール(MPP)は、こうした格差を是正しつつ、途上国の医療現場と医薬品業界双方のニーズを満たすための枠組みだ。MPPは市民社会、各国政府、国際機関、業界、患者団体、その他のステークホルダーとパートナーシップを結び新薬開発を促進したり、製薬会社らと交渉を行い医薬品の使用許諾を得て、中国やインドなどの後発薬メーカーにその医薬品の製造と途上国への廉価での販売を依頼したりしている。これは新たな市場の開拓を望む日本の製薬業界が十二分に活用できるツールだ。

これからも感染症との長い戦いは続く。パンデミックに国境はない。アフリカや東南アジアで起こっていることは地球全体に影響する。力を一つにして、再び開かれた世界を取り戻していきたい。こうした強い意志をもって、ユニットエイドはグローバルファンドと密接に、かつ補完し合って活動している。日本のステークホルダー、政府、NGO、企業ともっと密につながりたいと切に願っている。